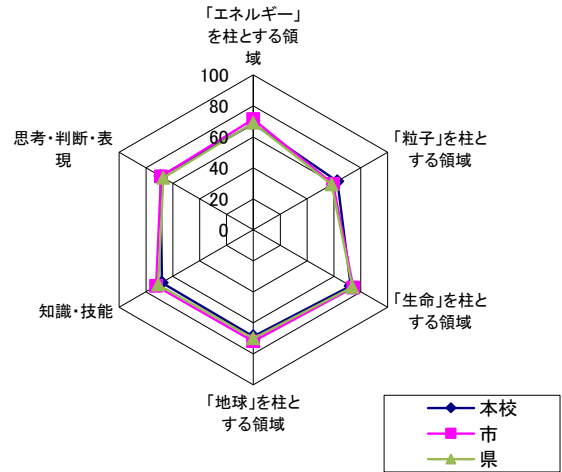


宇都宮市立東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.5	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	62.5	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	72.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	68.8	72.0	70.1
観点	知識・技能	68.2	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.1	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は68.5%であり、県の平均と同程度である。 ○3人以上で糸電話を使用し、1か所をつまんだ結果から音が伝わった人を指摘する問題では、県の平均を7.8ポイント上回っている。 ●磁石の異極は引き合い、同極は退え合うことを理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を9.8ポイント下回っている。	・単元のはじまりや実験の導入時には、普段の生活や既習事項と関連付けて考えられるように、時間をとって予想や仮説を立ててから実験を行うようにしていく。 ・実験では、児童一人一人が関わり、理解が深められるようにしていく。また、ICTを積極的に活用し、磁石のはたらき等が視覚化された教材を多く用いることで、児童の理解の一助としていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は62.5%であり、県の平均を4.2ポイント上回っている。 ○複数の物の重さを同じにした時の、体積の違いについて考える問題では、県の平均を15.4ポイント上回っている。 ○粘土の違いによる重さの変化について予想を基に実験結果を構想できるかどうかをみる問題では、県の平均を12.3ポイント上回っている。 ●重さを比較しながら調べる際に、はかりを用いて正しく調べる技能が身に付いているかをみる問題では、県の平均を8.4ポイント下回っている。	・生活の中の具体例を紹介するなど、各単元において、日常生活と学習内容のつながりを意識させながら理科の有用性を実感できる授業を実践していく。 ・実験を行う際に、結果がどうなるかを予想してから実験をしたり、実験結果を考察し、自分の言葉でまとめたりするなど、常に意識して指導することにより、科学的な見方や考え方、思考力や表現力を高められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は72.5%であり、県の平均と同程度である。 ○ホウセンカが育つ順番に図を並び替える問題では、県の平均を4.8ポイント上回っている。 ●記録カードを比べて分かることを選ぶ問題では、県の平均を8.2ポイント下回っている。 ●昆虫のあしのついていない部分を答える問題では、県の平均を5.5ポイント下回っている。	・自然の生き物の観察では、実物を見たり、触ったりする活動が一番望ましいが、ICT等を活用した映像資料等を多く活用していく。その際、日常の経験や体験を想起させながら、様子や成長の違いを確認して観察するようにしていく。 ・知識・技能を問う問題での正答率が低いことから、もう一度教科書等で既習内容を確認する。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は68.8%であり、県の平均と同程度である。 ○温度計の正しい使い方が身に付いているかを見る問題では、県の平均を3ポイント上回っている。 ●午前と午後、日なたと日陰で地面の温度を調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ問題では、県の平均を6.2ポイント下回っていた。	・太陽の動きについては、実際に屋上に行って観察する活動を行ったり、ICT等を活用し映像資料等を交えたりしながら視覚的に学べるようにしていく。 ・温度計の正しい読み取り方を指導し、正確に気温を測ることや、折れ線グラフの表し方と読み方を押さえるなど、一日の気温の変化と天気を正確に記録できるようにする。また、気温を調べるときに、調べた時刻と気温だけでなく、空の様子を写真に撮っておくことで、気温の変化の仕方を雲や太陽など空の様子と関係付けて考えられるよう、観察・記録の仕方を工夫していく。